

令和3年度宇部市総合教育会議（第1回） 議事録

1 日 時 令和3年5月18日（火）18:00～18:50

2 場 所 宇部市役所 4階 第2・3・4委員会室

3 出席委員の氏名

篠 崎 圭 二 市長

野 口 政 吾 教育長

田 村 賢 二 郎 委員

山 野 あ い 子 委員

川 崎 裕 美 委員

重 村 美 帆 委員

4 事務局出席職員

上村教育部長、床本次長、橋本次長

藤井施設課長、原学校教育課長、藤田教育支援課長、半田学校給食課長、

本多人権教育課長、石津学びの森くすのき・地域文化交流課長、山下図書館長、

山本図書館副館長、伊藤総務課副課長、平山総務課副主幹、河村総務係長

5 趣 旨

（事務局）橋本次長

ただ今から、令和3年度宇部市総合教育会議（第1回）を開催いたします。

本日の議題は、「1 第2期教育振興基本計画の策定について」、「2 大綱（基本理念・教育目標）について」です。

本日の会議の終了時刻は、18時50分を予定しています。

それでは、ここからの進行は、本会議の主宰者であります篠崎市長にお願いします。

（委員）篠崎市長

宇部市長の篠崎でございます。

ただ今から、令和3年度第1回総合教育会議を始めます。

新体制となつての最初の総合教育会議となりますので、最初に簡単な自己紹介をお願いしたいと思います。

改めまして、宇部市長篠崎圭二でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私自身、幼稚園から中学生まで4人の子どもがおりまして、まさに教育を受けている1人の親世代ですので、その若い世代を代表して、教育に対する思いもしっかりと皆さんと共有させていただきながら、宇部市の教育環境をより良いものにしていきたいと思っております。先日、宇部市の校長会でお話しさせていただきましたが、私の教育に対する思いとしましては、子供たちが、自分自身のありたい姿、いわば夢を、自分自身の力で見つけることができ、そしてその上で実現することができる力をしっかりと育むのが教育の今一番求められているところだと私自身は思っています。情報が非常に多くなる中、デジタル化社会の浸透、またオンラインなど、様々な世の中にあつて、子供たちが自分自身の力はどういう力なのか見極め、そしてそれをしっかりと伸ばしていくことが大事であると思っています。私自身の経験としまして、数学が苦手だから文系に行くという友達もいまし

たし、逆のパターンもありました。しかしそれではいけないと思います。自分がありたい姿、こういう姿になりたいから、理系に行く、文系に行く、強いて言うならこういう勉強をする、そういう環境を整えていくのが教育環境の一番大事な部分であると思いますので、私も首長としての意見をしっかり述べさせていただきたいと思いますので、教育委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、野口教育長にお願いします。

(委員) 野口教育長

教育長の野口でございます。

この教育振興基本計画、大綱は、宇部市の今後の教育のあり方を決めていく大切な、本当に重要な計画でございます。市長さんの思い、そして教育委員さんの思いを活かしながら良い計画を作っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員) 篠崎市長

それでは、田村委員にお願いします。

(委員) 田村委員

教育委員の田村でございます。

子どもはもう成人して大学生ですが、現在、仕事が歯医者ということもありますが、歯科医師会の公衆衛生担当理事をしております。フッ化物洗口などの事業に取り組みさせていただいております。また、UBEビエンナーレ世界一達成市民委員会の委員長もさせていただいております。彫刻教育というところにも興味を持って力を入れていくべきではないかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員) 篠崎市長

山野委員、お願いします。

(委員) 山野委員

山野あい子です。よろしくお願いいたします。

私は、山口県内で、小学校の教員を36年間させていただきました。

最初の赴任地が岩国市、それから小野田市、一番長かったのが光市で、宇部市は2校、川上小学校と神原小学校で仕事をさせていただきました。その時に、宇部市は違うとすごく感じました。県内ほとんどみな似ていますが、宇部市に来た時だけ何か違うということをすごく感じました。一番初めのフィールドワークの時、宇部興産海運の元社長渡辺さんがガイドをしてくださり、「宇部市は元々蛤御門の変で福原公が責めを負われて切腹させられて、そこから宇部モンロー主義が生まれ、宇部市だけは他と違うんだ。」という話をお聞きして、なるほどと思いました。今日、大綱を考える上でも、共存同栄・協同一致などが元々そこからきていると聞いて、納得したところです。よろしくお願いいたします。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。次は、川崎委員、お願いします。

(委員) 川崎委員

川崎裕美です。よろしくお願いいたします。

私は現在、高校2年生と高校1年生の子どもの母親です。子供が小学校に入学したとき

に、小学校で家庭教育学級の委員長を務めました。それから10年間、小学校、中学校のPTA役員をはじめ、宇部市PTA連合会や山口県PTA連合会で、多くの役員をさせていただき、たくさんの方との出会いや多くの経験をさせていただきました。この6月で山口県PTA連合会の任期を終えることになっており、少し寂しい気持ちですが、昨日、子どもが在学する高校から電話をいただきまして、次は高校で保護者会の役員をすることになりましたので、小学校や中学校とは違った関わり方があるのではないかと、楽しみにしているところです。また地区では、保護者という立場ではありませんが、お世話になってきた学校や地域に少しでもご恩返しができるように、今までのご縁や、私の少ない知識や経験ではありますが、お役に立てるように活動しているところです。地域協育ネットの養成講座や、家庭教育アドバイザーの養成講座で学んできた知識を生かしながら、小学校、中学校の学校協議会でコーディネーターを務めたり、地域学校協働活動推進員として、学校と家庭、地域のかけ橋となったり、訪問型家庭教育支援チームの笑顔サポートチームの方で、不安や悩みを抱えた保護者の方をサポートしています。昨年度防災士の資格も取りましたので、ずっとお世話になっている少年消防クラブで、子どもたちにもっと知識を深めてもらったり、放課後子ども教室のメンバーにも入れてもらいましたし、地域で子どもの居場所づくりもしておりますので、学校や家庭では見せない子どもたちの姿、地域でしか見られない子どもの姿にいつも癒されています。昨年度は、厚南中学校区で、県教育委員会主催の、PTAと連携した家庭教育支援のモデル校として保護者同士の繋がりを目的とした事業に取り組んで参りました。コロナ禍ということもあって、例年通りの活動はできなかったのですが、PTA役員の方々の得意な分野を活かしながら、PTA活動の新しい形で保護者同士の繋がりを作ることができました。そしてこの取組が、今後のPTA活動のあり方を考えるきっかけとなったことは、間違いないと思っています。子どもたちが安心して、健やかに育つためには、家庭での教育が必要だと思っています。すべての保護者が安心して子育てができる環境は必要不可欠だと考えています。今はもうなくなってしまいましたが、私が委員長を務めていた家庭教育学級のような取組がまたできて、保護者同士がいろいろな情報交換したり、学校に相談するほどのことではないけれども、少し聞いて欲しい悩みであったり、不安を解消できる場、居場所が宇部市の中でも広がっていったら良いと思っています。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。

重村委員、よろしく願いいたします。

(委員) 重村委員

重村美帆です。よろしく願いいたします。

私も小学校4年生と1年生の子供を持つ母親です。まさに今、1年生になったばかりの次女は5月病にしっかりとかかり、自宅で休みたいと言ったり、学校は楽しいと言ってみたり、家と学校とで揺れ動きながら少しずつ学校教育の中に入っていき、子どもの気持ちを間近で感じながら、日々を過ごしている状況です。私自身は宇部フロンティア大学の保育者養成に教員として所属しており、まさに宇部市で小中高と教育を受けた子どもたちが大学生として入学してきている姿を見ているので、そういった立場で、その小中の子ど

もたちがどういった教育を受けて行くべきか、それから子どもたちが育った後、大学生として、それから社会人となる一つ手前の学生たちが持っている課題等も踏まえながら、今日は色々と意見を出させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

(委員) 篠崎市長

皆さま、ありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、本日の会議に入ります。

まず「議題1 第2期教育振興基本計画の策定について」、事務局の方から説明を願います。

(事務局) 橋本次長

それでは議題1、第2期教育振興基本計画策定についてご説明します。

教育振興基本計画は、教育施策を総合的かつ計画的に推進するため、本市の教育が目指す基本的な方向や今後推進すべき具体的な施策などを明らかにするものであり、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として位置付けられています。宇部市の計画は、平成25年7月に策定し、その後、平成28年3月に一部改定し、この計画を大綱として位置付けているところです。教育振興基本計画に関する国、県の動きについて、国においては、平成18年に教育基本法が改定され、新しい教育の基本理念、国と地方公共団体の役割分担と責任、地域の実情に応じた教育振興のため、地方公共団体における基本計画策定の努力義務が示されています。国では、基本計画を平成20年、25年、30年度に策定され、現在は第3期教育振興基本計画の期間にあります。県では、平成10年度から教育ビジョンがありましたが、平成25年度からは教育振興基本計画を作成され、今に至っているところです。教育振興基本計画の策定にあたりまして、この基本計画と、宇部市総合計画との関係ですが、両計画に掲げる個別政策において、市関係部署と一体となって取り組んでいくこととなります。教育振興基本計画の期間を、総合計画前期実行計画と同じ5年間とし、同時的展開を図る予定です。次に、総合教育会議との関係ですが、市長と教育委員会で構成される総合教育会議で、教育行政の大綱、教育の目標、施策の根本的な方針が策定されましてそれを参酌し、教育振興基本計画の個別施策に反映されることとなります。大綱を参酌し教育振興基本計画を策定するものであります。教育基本計画に掲げる教育理念、教育目標は大綱そのものであることから、教育基本計画を大綱に位置づけることができるものとなっております。それから、法律上の位置づけとしては、大綱と教育振興基本計画はそれぞれ別の法律に、その根拠を持ってあります。大綱につきましては、策定主体は地方公共団体の長、私どもでは市長になりますが、総合教育会議において、協議をしながら策定する形になります。大綱に関する文科省の考え方ですが、定義といたしましては、大綱は地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるもので、対象期間は4年から5年程度となっております。教育振興基本計画との関係ですが、地方公共団体において、教育振興基本計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が大綱に該当すると位置づけることができると考えられることから、地方公共団体の長が総合教育会議において教育委員会と協議調整し、教育振興基本計画をもって大綱に替えることと判断した場合は別途大綱を策定

する必要はないとされています。次に別添資料1ですが、県内の主な市の大綱についてまとめたものとなっております。別添資料2については、教育振興基本計画の作成スケジュールについて示しております。以上で説明は終わります。

(委員) 篠崎市長

ただ今、事務局より、第2期教育振興基本計画の策定と教育行政における教育大綱と振興基本計画の、法的な位置づけについてご説明をさせていただきました。

現在、本市では振興基本計画の基本理念と4つの基本目標をもって大綱に位置付けているところですが、計画策定から8年が経過する中で、新型コロナウイルスの発生に伴って、GIGAスクール、いわゆるデジタル化の浸透が、教育現場にも大きく進んで参りました。このような状況などをしっかりと踏まえ、教育行政を取り巻く社会情勢は大きく変化していると私自身考えております。そのため、第2期計画の策定にあたってはまず、計画の柱となる大綱、いわゆる基本理念、基本目標から、社会情勢の変化を踏まえた見直しを検討していく必要があると考えております。事務局の説明にもありましたが、大綱は市長が策定することとなっておりますが、教育の振興を図り、より質の高い教育環境を実現するためには、教育委員会と市が方針や目標を共有して、連携していくことが重要となると考えております。そのために総合教育会議の場におきまして、教育委員会の皆様と十分協議をさせていただいた上で、大綱を策定していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、これらを踏まえた上で、「議題2 大綱（基本理念、基本目標）について」に移らせていただければと思います。

田村委員から、大綱についてご意見をお伺いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員) 田村委員

今、市長が言われたとおり、環境はどんどん変わっており、コロナの話に尽きますが、そういった、取り巻く情勢はどんどん変わってきています。その中で、私の立場から言いますが、先ほども言いましたけれども、健康というところが非常に大事なウェイトを更に占めてきているのではないかと思います。宇部市は、フッ化物洗口を県内後発で何とか始めることができました。フッ化物洗口というのは歯を丈夫にして虫歯にしないというところがまずの目的ではありますが、フッ化物洗口を毎週1回やることを通じて子どもたちにそれを何のためにやっているのか、歯を守るため、自分の体の健康のためにやっているという目的意識をちゃんと持ってもらいながらやってもらうというふうにプラスアルファ、そこまでちゃんと学校現場では子どもたちに伝えていってほしいと申し上げておりました。要は健康教育ということで、自分の体は自分で守るという気持ちを子どもの頃からしっかり持つておかなければいけないということで、山口市の教育目標のところ、唯一「健やかな体で」という一文が入っています。他にはないんですが、これを基本理念の最初にあげているということはやはり、これは大事なのではないかと思います。宇部市の教育大綱の中でも、1-1-4で、体力の向上及び健康教育の推進というのがやっとなって出てきます。以前にお願いして、やっとなって入れてもらったという感じがありまして、まだまだ重要視されていないのではないかと、もう少しランクを上げたところにこの健康教

育の推進というのは入れていいのではないかと、と常々思っているところです。以上です。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございました。

それでは、山野委員さん、お願いします。

(委員) 山野委員

社会的変化というのが大きくて、今からの教育施策を考えた時に、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質とか能力を学校で育てていくということがとても大事になってくると思います。基本目標1ですが、宇部市のすごいと思うところが「学び合いのある授業」です。そこだけは、いくら環境が変わっても外せない、そこだけは絶対にもう一回押さえてほしいと思いますが、どの子どもも自分の言葉で語って、お互いに向き合うということを大切にすることです。分からないことは分からないと言える、何でもか、どうしてとか、教えてとか、どうするのということが言えることで安心できると思います。子ども同士が繋がることができたなら、教室や学校の中で信頼関係が築かれて、いじめとか不登校とか、暴力行為が減ります。それから、しんどい子ども、特別な支援が必要な子どもたちにとっても居心地の良い学び合い、学びの場になると思います。元々学び合いが入ってきた背景として、宇部市の中学校がとても荒れていたということがありました。それで、学び合いで授業が変わって学校が変わってきて、落ち着いて生き生きとした、今の中学校を見ると本当にすごいと思います。小学校も、すごく頑張っている先生もたくさんおられますけれども、まだ少し浸透していないと思うところもあるので、これからの教育としては、すべての子供たちが共に学び合って自ら進んで課題を解決していくような授業が行われることが大事なのではないか、ということすごく思います。だからそこは絶対に外せないと自分では思っているところです。次に基本目標4、共存同栄、協同一致の精神（こころ）で、人と人が支え合う地域社会の実現ということで、今、コミュニティ・スクールがすごく頑張っていて、さっきの上宇部中学校のことも、子どもも、学び合いとコミュニティ・スクールの力が、積極的な地域貢献が、子どもたちの自尊感情や自己有用感などを高めることができたと思います。参加する、手伝う、それから今度は企画する、となって、今は学校運営協議会に生徒会も入ってくれ、そのことが地域の方々に元気を、生きがいを与えているということと、それから、子どもたちが学力面でもとても向上してきていると思います。先日上宇部小学校の第1回学校運営協議会でも、子どもたちが参加してくれました。それが本当に今から先の参画への力となっていくかと思っていて、今から先の教育の中で、地域と一緒にやるということは、とても大事なことはないかと思っています。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございました。

それでは、川崎委員さん、お願いします。

(委員) 川崎委員

私は宇部市が取り組んでいるSDGsや共生ホストタウンという取組が、言葉もですが、みんなが同じ方向を向いて取り組んでいけるということがとても大好きなところです。今、コロナの状況下で子どもたちの自死や不登校などの問題がマスコミ等でも取り上

げられていますが、やはり大人も子どもも安心して過ごせる、自分の居場所を確保してもらうのは、とても大切なことだと思っています。基本目標の1-3-2にも「重点的取組 7 学校安心支援活動事業」とありますが、子どもたちが安心して過ごせる場所というところに力を入れていただきたいと思います。後は、先ほども申しあげましたように、地域で保護者の方を支えていく、大人の居場所を確保していくというところでも、地域の活動というのはとても大切なことで、コミュニティ・スクールと協育ネットは、何かと混同しがちなところがありますが、コミュニティ・スクールでは学校運営のことをしっかりと協議され、協育ネットでは地域づくりを重点的に取り組んでいって、地区の方、皆さんそれぞれの居場所が、自分の居心地の良いところができるような取組を、宇部ならではの取組として進めていって欲しいと思っています。SDGsについては、学校運営協議会でも、皆が同じ目標を持って取り組んでいくというところで、私はいつも活用させていただいていますが、とても良い目標であり、わかりやすい明確な目標ですので、その辺をしっかりと前面に出していただけたらありがたいと思っています。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。

それでは、重村委員さん、お願いします。

(委員) 重村委員

私の方からは、保護者としての不安と、後は、今、大学生を見ての昨年度の課題があると思っています。遠隔授業、それから休校ということで、小学校、中学校の家庭学習です。大学の場合ほとんどが遠隔授業ということで、先生が本当に慣れない中、ものすごく努力をされて、動画で授業を配信されて、児童生徒の皆さんも、それを何とか自宅で閲覧して課題をこなしていくという、本当に今から必要な授業の形だとは思っていますが、ただ、今年度、コロナは昨年度よりひどい状況にはなっていますが、学生たちの中からは、遠隔での授業の学びが全く身につかなかったという声が非常に多かったです。それで、可能な限り、対面で、直接先生たちの声で、生の情報や教科書では分からないことをしっかりと伝えて欲しいという要望が強かったということと、やはり、授業を撮影している教員自身も、学生、生徒たちの顔を見て反応を見て教示の仕方を変えたりしながら授業されているはずですので、そういった人と人との関係性の中で、学びは深まっていくということ、昨年度の状況を踏まえて、現場では実感として持っているかと思います。そういった中で、山口県でも今日66名近く感染者が出ているということで、おそらく、遠隔への移行は遅かれ早かれまたやってくるかと想像していますが、その中で、遠隔であれ対面であれ、一人一人の学びの対象となる子どもたちが、その学習をきちんと定着させるためにはどういうことが必要なのかということ、具体的に考えていく必要があると思っています。特に定着と、もう一つは学習したこと同士をつなげていくということです。大学生の中でも、縦の繋がり、接続というのは、幼小連携もそうですが、接続というのはすごく注目されていますが、横の繋がり、もちろん先生方はそれを考えて授業を作られているはずですが、小中高でその学びを受けてきた18歳の学生たちの多くが、科目と科目をつなげていく力が非常に弱いと感じています。自分たちが学習したことを応用する力と言い換えられると思いますが、繋げて応用して発展させていく部分が非常に今の18歳の子たち

は弱いと感じていますので、それが、例えば、私も学び合いの授業に参加させていただいたこともありますが、学び合いが、今度はその個々の学習の定着とともに学習同士をつなげていく、そういった学びにつなげられていく、宇部市ならではの新しい、具体的には私の中でもないですが、作っていくことができれば、コロナであれ、どういった状況であれ、遠隔でも対面でも、子どもたち一人一人がちゃんと学習を定着させて、その学習同士をつなげていくことができる、それこそが本当の学びだと思いますので、そういう大綱が作れば理想ですけれども、個人的にも保護者としても、子どもたちも、また受けていく大学教員としても、とても望ましいと感じています。以上です。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございました。

それでは、野口教育長、お願いします。

(委員) 野口教育長

この振興計画基本理念を新しく考えるにあたって、宇部らしさとはいったい何か、宇部でないとできない教育とはいったい何かと、私はそれを一番大事にしていきたい。その中で、ここにも出ていますが、共存同栄かなと、それがやはり学び合いを生み出してきた基になるのかなと思います。ただ、今の時代、学び合いを前面に出すのは当然ですが、そのもう一つ前に、共存同栄というのはやはり支え合いだと私は思っています。

みんなで支えて、その子どもたち、特に、厳しい立場、弱い立場である子どもたちも支えていきながら、SDGsの視点とか、ダイバーシティの多様性、共生社会の視点を考えると、教育大綱、教育振興基本計画は、子どもたちだけのものではなく、宇部市全体の大人、生涯学習にもつながる、そんな大きな基本理念が必要だと思います。ですから、みんなで支え合って子どもを育てる、そして、大人の生涯学習にもつながっていく、そういう理念があると良い。ただ大切なのは、組織で、集団でやる学び合いとか支えを基に、最後は一人一人が豊かな、幸せな、一人一人が伸びていく、子どもであれ大人であれ、お年寄りであっても、宇部で良かった、学んで良かったと思えるようなまちをつくっていくという視点で、考えていきたいと思います。当然、社会の変化に対応したICTや英語教育なども入れながら、また、支え合うという視点ではユニバーサルとか不登校、いじめの対応、特別支援、そして、子どもたちを支えていく教育施設、学校給食含めて、さらに、宇部市民のことを考えると、読書のまち宇部であったり、人権教育であったり、文化財も含めて、支え合って学び合ってそして一人一人が豊かに伸びていく、そんな基本理念で、ぜひ教育のまち宇部、学びのまち宇部というところを、クローズアップさせていきたいと思っています。

(委員) 篠崎市長

皆様ありがとうございました。

貴重なご意見本当にありがとうございます。

では皆様のご意見をお伺いしたので、私の教育のあり方というところでございますが、最初にお話しさせていただきましたが、子どもたちが自分たちのありたい姿を自分で探す、そしてそれを実現できる力を育んでほしいというのが私の思いですが、やはり今回大綱ということなので、色々な課題に今市長としてあたっていますが、一番大事なのは、現

状があって、自分たちが目指す、あって欲しい姿、ここで言ったら子供たちのあってほしい姿です。あるべき姿があって、そことのギャップを比較することが大事なのだと思います。そういう意味で一つの例でいくと、田村委員から言っていただきました、健康な子どもたちが減っているというところであれば、ではそこに健康教育という手法を使っていけば良いし、まずはこのありたい姿という中で今、委員の皆様から、健康をしっかりと、体に気を付ける、自分自身の体を自分で守るという思いを持って欲しいであるとか、学び合う、支え合うというところであるとか、地域と繋がりを持って欲しいとか、SDGsであるとか、そのあたりをしっかりと今日ご意見いただいた部分を、今は少し手法が走ってしまったかなという感を若干私は感じましたが、だからこそまずありたい姿、手法が先に出了たのでありたい姿を、今日ご提言いただいて、しっかりとありたい姿をまとめさせていただければと思っておりますし、今デジタル化、重村委員からデジタル化教育の課題というものもお話いただきましたが、デジタル化というのは所詮手法に過ぎなくて、子どもたちにどうい教育環境を整えるか、コロナ禍の中にあってはやっぱりデジタル化をしっかりと生かしていかなきゃいけない、プラスオンでデジタル技術に子どもたちが負い目を感じてはいけないと思います。ひと昔前は読み書きそろばんができませんという時代がありましたので、なかなか社会進出できないという課題がありましたが、これからの時代、私が考えるには、デジタルができなくて置いていかれるような差別を生んではいけないと思っています。だからこそデジタルは一つの、これから読み書きそろばんデジタルではないですけど、そういうふうな要素になってくると思いますがそれも手法であると思えますし、先ほど重村委員からもお話いただきましたが、これは宇部高専の先生からお聞きしたお話しですが、授業がオンラインでできるのになぜ学校に来なければいけないのかという質問をした生徒さんが、宇部高専におられたそうです。まさしくそこであって、今から教育現場を考えていく上では、デジタル授業は画面でできますが、その上で学校に来る意義もしっかりと見だしていけないといけないですし、そこが先ほど言われた学び合いとか、地域との繋がりというところであると思えますので、やはり手法は所詮手法に過ぎませんので、まずはあるべき姿を、今日、いろんなご提言いただいたことをしっかりと、ありたい姿をまとめていきたいと思えますし、そういう意味ではここから我々は未来も考えていかなければいけないと思います。これからどういう社会が到来してくるのか、デジタル化、オンライン化、そして今起こっているパンデミック。これが今後20年間で更にもう3回ぐらい起きるといふ予測もありますが、そのような環境の中であってもしっかりと教育ができる体制を整えられるかどうか。この後コロナ対策会議を行います。今日県知事から強いメッセージがありましたので、やはりそういう中で、対応できないといけないと思います。今いただいたキーポイントで、健康、学び合い、コミュニティ、支え合い、自分の居場所、これも大事だと思いますし、地域のつながり、このあたりをしっかりと、基本理念をどうやってまとめていこうかと、今、面白くなってきたと感じたところです。未来がどうなるのかというのも皆さんからご意見いただきたいと思えます。もう少し時間がありますので、どういう子どもたちに育てて欲しいのかというところから、バックキャストで持ってこれたら、と思えます。

田村委員から、お願いします。

(委員) 田村委員

共存同栄、これはもう、宇部らしい教育というところでぜひ目指していかなければならないところだと思いますが、要は支え合うというか、相手を認めてそれで学び合いながら、一緒に高みを目指して行こうというところで、それがとても大事だと思いますが、更に基本にあるのが相手を認める、相手の存在を認めるという最初のところが大事で、では、その存在を認めるというのは何かというと、挨拶だと思います。この大綱の中に挨拶をしようということは入っていませんが、その一文を入れるというわけにはいかないと思いますが、大体学校運営協議会など地域で何か目標を決めようとなると、必ずどこの地域でも挨拶をしようということが絶対に出てきます。これが大綱の中に入れてもいいのではないかと思うぐらいだと僕は思っております。相手の存在を認めるという、本当に挨拶ということは、もう基本中の基本ですし、校長集会の時も言いましたが、マザーテレサはいわく、愛の反対は無関心、相手の存在を認めないということです。愛のある子どもを育てるということはやはり、まず挨拶できる子供を育てることが一番近道だし、一番大事なところなのではないかなと常々強く思っています。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございました。

私も共存同栄という言葉は、共生社会という言葉の100年前に出てきた、本当に素晴らしい宇部市の心であると思っています。それで今大事な部分に触れていただきましたが、相手の存在を認められる、このあたりをキーワードで活用させていただければと思います。ありがとうございます。

次に、山野委員から、子供たちにこうあって欲しい、こうあってもらいたいという姿がありましたらお願いします。

(委員) 山野委員

実は、この間の学校運営協議会に小学生が入ってくれたのですが、それこそ挨拶でした。いつもアンケートで何%というのが出るのですが、自分たちはとても挨拶を上手にしていると思っていて、でも、先生方や地域の人たちは、あまり挨拶ができていないと思って、そのパーセントがどうして違うのか、そのずれに着目して、それがすごいと思ったんですけど、子どもたちが本当はどうなのかということを実際自分で調べているんです。それで、調べてみたら、本当にできてないということがよくわかったみたいで、それではどうするかということで考えて、それを投げかけてきました。私たちも、田村委員が言われたように、挨拶ってなんで大事なのっていうところから考えないといけないと思うんですが、心を開く、だからあなたのことを認めていますよ、あなたのことは大事ですよ、反応があってもなくても、反応がないっていうのも、無視するというのも、一つの相手の反応だと思います。挨拶に対して誰もが何らかの反応をしているのですが、それって、まず人と繋がる第一歩で、私はあなたのことを認めていますよ、ということだと思います。だからそれが、子どもたちにとっての本当に第一歩になる、人を認める、自分を大事にする第一歩になるんだなというのはすごく感じます。だから本当に、自分が大事にされている、だからこそ、人も大事にできる、そういう子どもたちであって欲しいとも思っています。欲を言えば、今までみたいに知識を覚えるだけではなく何でそうなるの

か、という、自分の意見が、自分の根拠を持って話せるようになって欲しいとは思いますが、根本的にはやっぱり人間らしさというか、相手を大事にする、自分を大事にするということも大事かと思っています。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。

今の、心を開くとか、自分を大事にすることに繋がる、これは本当に大事なことだと思います。

それでは、川崎委員から、こうなってほしいというところの率直な思いをお願いします。

(委員) 川崎委員

はっきり覚えていないんですが、学力学習状況調査の時などに、自分に良いところがあると思いますか、という質問に対して、当てはまると答えた子どもたちが、今年度、小学校6年生で33%しかいませんでした。とかく、親や学校の先生というのは、自分の苦手なところやできないところとか、悪いところを見つけて注意されがちですが、良いところを見つけて褒めてくださるというところがあまりないのかと思っています。やはり自分を認めてもらえないと、皆さん言われるように、人を認めてあげることができないと思っています。それで、子どもたちには、自分には良いところがあって、自分はこういうところが誰よりも優れているということを、自分で認めることができるような子どもであって欲しいと願っています。後は、自分の子育ての中で、人間が一番偉いと思うなと私は常に子どもに言っています。この地球上に命あるものはすべて同じ一つの命だということを言っています。それぐらい、自分だけではなく、周りのことも見ることができて、そのことによって自分を大切にできる子どもであって欲しいと願っています。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。

そのまま理念にできそうな言葉をいただきましたが、そこは本当に大事だと思います。やはり今のお子さんたちは自己肯定感が非常に低いということはデータでも出ていますし、マズローの欲求ではないですが、自分を認めるというところが人間の基本的な部分でもありますので、そこをしてあげないと、先ほどコミュニティ・スクールの成功事例がありました。私も県議の時、いろいろ事例を学ばせていただいて、近所の人からテストのことを褒めてくれるから勉強を頑張ったとか、近所の人が見ているから悪いことをしなくなったとかいうこともいうこともありますので、やはりそこは自己肯定感というのはすごく大事なポイントだと思いますので、しっかり付加させていただきます。

では、重村委員、お願いします。

(委員) 重村委員

私が子どもたちに望む姿は、自分の子どもたちが大好きなアニメがありますが、主人公たちにすごく憧れています。それはなぜかというと、強さだと思うんです。強いというのは、力が強いだけではないと思うんです。心の強さというのは3人の委員さんが言われたとおり、相手を思いやるとか、周りのいろいろな動きに気づくとか、そういったものだと思うんです。私は、自分の子どもを初め、周りに惑わされることなく、自分の心が望むも

のを、強くまっすぐ生きていって欲しいと本当に思っています。そういった、アニメに代表されるような主人公たちに憧れる子どもたちにとって、おそらく自分たちが求めるものがそこに描かれているからこそ、すごく惹かれているのだろーと思っておりますので、色々な意味を含めた強さを持った子どもとして育ていって欲しいと思っております。以上です。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。

重村委員さんの言われるとおりにかと思っております。自分の子どもたちはそういうアニメはあまり見ませんが友達とかはそういうところに憧れて、こういうふうになりたい、体だけが強いのではなく、心の強さでこういうふうには私は弱者に寄り添いたいとか、そういう思いがある子どもさんたちが増えていると思っておりますので、そういうアニメに憧れるというのはあるので、心の強さという素敵なキーワードをいただきました。ありがとうございます。

では、野口教育長、お願いします。

(委員) 野口教育長

この1月に中教審が、令和の日本型教育という新しい学校教育の姿を示しました。Society5.0の時代に生きる子どもとか、コロナウイルスの感染拡大など、そういう予測可能な危機に対応する子どもとか、また持続可能な社会の担い手になれる子どもとか。私は、そういう大人の都合で、これは作りたくないと思っております。文科省、中教審を否定する話で申し訳ないですが、私は、子ども、そして市民の思い、ありがたい姿、いろんな他者を認めて、他者と協働する中で、一人一人が豊かな、生きがいのある、やりがいのある人生を、見つけていこうということです。子供であれ、若者であれ、ご高齢の方であれ、それが、私のなりたい、子どもだけでなく、宇部市民のなりたい、あつてほしい姿だと思っておりますし、そのためには市長さんがよく言っておられる、キャリア教育です。こんな仕事に就きたい、これが大事ですけど、こんな生き方がしてみたい、こんな人生を送ってみたい、こんな人になってみたい、こういうことを大切にしたい、教育大綱、教育振興基本計画を作れば良いと思っております。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。教育長からも、力強い思いが入った言葉をいただいて、私自身もやはり心の強さや自己肯定感は大変であると思っております。今、代わりに言っておりましたキャリア、自分の人生をどうしたいのか、やはりここが一番一人の人間として大事なところで、その土台を作るのが教育なのだと思います。私が一人よく参考にさせていただいている社会学者の方がおられますが、昭和の時代は、社会というパズルの枠に当てはまらない人は社会から排除されていた時代で、平成になってそういったことに少し感受性が高くなって、四角い枠になって、この四角の枠に入る人だったら三角でも丸でもひし形でもみんな入る、それぐらいの多様性がある、しかしこの四角に入らない、とんがってしまった人は入りません、それが平成の時代です。しかし令和になったら枠自体がなくて、枠自体も粘土みたいな柔らかい形で、それぞれの個人個人の形が固いものであって、その粘土の枠にはまりこむような、そういう世の中であるのがこれからの令和の時代のありがたい姿ではないかという話を聞いて、非常に感銘を受けて、どんな形であってもその人ならではの形が活かせる、そんな社会でありたいというところなんです。それをどんな形でも大丈夫

という心の強さとか、逆に色々な形を認める、多様性を認めるという、先ほどいただきましたご意見ですけど、やっぱりそういうところを目指していく教育というのが必要であるかなと思います。そのためにどのような能力が必要なのか、例えばSDGsに対する理解であったり、人の話、共生社会、やはりそのあたりをきちっと手法で作ってあげればと思いますし、そのあたりは社会環境の状況で、やはりデジタル化が必要だ、デジタル化が必要な部分と、デジタルでは駄目だ、リアルの部分、そういう意味では体験とか、自然教育とか、そういうのも色々あると思います。そしてそれをやる上ではやはり体が丈夫でないと駄目ということでは、体を大事にする教育であるというところが出てくると思いますので、今日非常にありがたいキーワードをいただきましたので、これらを基に今いただきましたご意見を踏まえて、これから本市の教育の基本理念、基本目標について、案を示させていただければと思います。本当はこの話、1時間でも2時間でももっともってやりたいですが、そういう思いがあります。逆に、やっとなエンジンがかかってきたなという感じですが、時間の都合で申し訳ありません。今回いただいたご意見を踏まえて案をお示しして、また皆様からこういう部分が欠けているのではないかというご意見ありましたら、お伺いさせていただきまして、宇部市の教育大綱の中に位置付けさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。よろしいということで、しっかりと案を示させていただいて、それに対して率直なご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

少し駆け足になってしまいましたが、これにて第1回総合教育会議を終了したいと思いますので、本当に、本日は長時間にわたりご協力いただきまして、またご協議いただきありがとうございます。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

本日ありがとうございました。

(事務局) 橋本次長

それでは、以上で令和3年度第1回宇部市総合教育会議を終了いたします。